

～西日本初！消防ヘリコプターの 24 時間運航に向けて～

京都市に消防庁が整備するヘリコプターの配備が決定！

京都市では、昭和 47 年 4 月に消防航空隊を発足させ、遠隔地での救急活動をはじめ、山岳地での救助活動や山林火災での空中消火活動、災害現場上空からの情報収集など、数多くの災害に消防ヘリコプターで出動し、市民の皆様の安心、安全を空から支えています。

この機動力をより有効に活用するため、これまでヘリポートの施設状況等から運航時間が昼間に限られていたものを、夜間においても運航できる体制の整備を進めてきました。

消防庁が消防ヘリコプターの 24 時間運航体制の強化を図るため、自治体へのヘリコプターの配備を計画される中、京都市が 24 時間運航体制の整備を進めていることをアピールし、配備を要望してきたところ、この度、配備先を京都市とすることが決定されました。

現在、自治体が保有するヘリコプターにおいて 24 時間運航を行っているのは、東京消防庁、仙台市消防局及び埼玉県の 3 機関で東日本に集中しており、西日本で初めて京都市が 24 時間運航を行うこととなります。

1 消防庁の計画

大規模災害発生時における緊急消防援助隊の装備の充実強化を目的として、24 時間運航を行える都市に対して、ヘリコプター 1 機を配備するもの

2 決定の内容

(1) 決定理由

- ① 夜間の大規模災害発生時に、ヘリコプターを迅速に出動できる体制が確保できること
- ② 西日本の都市には、24 時間運航体制が整備されていなかったこと

京都市が、市民の安心安全のため、ヘリコプターの 24 時間運航体制の整備を進めており、上記の条件を満たす都市であることを強くアピールし、配備が決定された。

(2) 配備ヘリコプターの概算経費（約 15 億円）

<内訳>

- ① ヘリコプター機体 約 1,200 百万円
- ② ヘリコプターテレビ電送システム 約 280 百万円
ヘリコプターが撮影した映像を消防指令センターや消防庁等にリアルタイムで送信するシステム
- ③ ヘリコプター動態管理システム 約 20 百万円
衛星通信を利用して消防指令センターや消防庁等において、ヘリコプターの位置情報などをリアルタイムに監視できるシステム

【※今回、配備されるヘリコプターについては、現行の「あたご号」（裏面参照）と同等の機能を有するものとなる見込み。】

3 運用

京都市のヘリコプターは、「ひえい号」と「あたご号」の 2 機体制をとっており、今回、配備されるヘリコプターについては、更新時期を迎える「あたご号」（平成 3 年度の整備から 17 年が経過）の後継として活用し、24 時間運航体制に移行する。

4 今後の予定

- ・ 平成21年度 ヘリコプター購入契約（消防庁において実施）
- ・ 平成22年度 京都市にヘリコプター導入
- ・ 平成23年度 24時間運航体制に移行

5 その他

ヘリコプター以外に、以下の車両が本市に配備されることが決定

- ・ 支援車（概算経費 約80百万円・平成7年度に整備した車両を更新）
長時間におよぶ災害現場で活動する消防隊員への後方支援を行う車両
 - ・ 燃料補給車（概算経費 約10百万円・新規配備）
燃料タンクを積載し、災害現場で消防車両等に燃料を補給する車両
- 合計
約90百万円

消防ヘリコプター



主要諸元・性能

名称	あたご
製造会社	アエロスパシアル社 (仏)
形式	AS362N2 ドーファンII
全長	13.68m
全幅	3.25m
全高	3.97m
主回転翼直径	11.94m
最大全備重量	4,250 kg
エンジン最大出力	733 馬力×2 機
最大座席数	14 席
最大巡航速度	279 km/h

現行の「あたご号」

- ・ ヘリコプターテレビ電送システム、動態管理システムなどを装備
- ・ 上空からの情報収集、山林火災の空中消火、山間地の救急救助、河川、山林での捜索等を実施

支援車



- ・ シャワー、トイレ等を装備
- ・ 長期間にわたる消防活動を支援

燃料補給車



- ・ 補給用タンク、ポンプ、給油ノズル等を装備
- ・ 活動部隊車両への災害現場における燃料補給（補給量：軽油 950ℓ）